

文化芸大生と釣り具業者など連携

## 釣りざおホルダー開発

静岡文化芸術大（浜松市中区）の学生と釣り具販売のイシグロ（中区）、仲田建築（北区）などが連携し、インテリアとして釣りざおを飾る「極 2way ロッドホルダー」を共同開発した。地元産の天竜杉を使っていて、イシグロで

二十五日に発売する。

木目や節を強調し、天然木らしさを表現している。高さ一・二五メートル、幅七十八センチ、釣りざおを六本収納でき、立て掛けたり、壁に掛けたりして使用する。ナチュラルと焼き杉の二種類を販売する。加工を担当した



共同開発したロッドホルダーの出来栄を確認する関係者たち―浜松市中区で

仲田建築の仲田伸吾取締役（四〇）は「釣りざおがきれいに見える感覚や木の温かみにこだわった」と話す。

パッケージのデザインを担当した静岡文化芸術大二年の佐藤梨奈さん（三〇）は「高級感のある商品イメージを生かすために、写真の陰影に気を付けた。自分がかかった商品が世に出るのは信じられない気持ちだが、うれしい」と喜ぶ。

浜松地域の活性化に取り組み市内の二十一社・団体でつくる「はままつ応援隊」の活動の一つで、地域の良さを若者に伝えようと昨年から開発を進めてきた。

価格は一台一万二千八百円（税抜き）。イシグロ高林店（中区）と中吉田店（静岡市駿河区）、鳴海店（名古屋緑区）の各店で十点のみ限定販売する。来年一月以降はイシグロの他店舗でも扱い、計百点の販売を目指す。

（山田晃史）